

今年は相馬御風 (1883-1950) 生誕140年の記念イヤー。糸魚川の四季を愛した御風さんのエピソードを連載で紹介していきます。

140th
Anniversary



相馬御風生誕140年



イラスト：カテイトエ (梅津諭・和枝)

No.

1

「義憤に駆られた冬」

冬の語源は「増ゆ」という説があります。あらゆる生命がエネルギーを蓄え増やし、来るべき時に備える期間と考えると、なるほど!と思います。

御風さんは、冬が大好きでした。食べ物はおいしいし、雪はきれい。雪に閉ざされることで、かえって家族や地域の絆が深まり、人々の心は豊かになるからという理由でした。そう、大好きだったんです。あの事件が起きるまでは…

親不知の東端近くにそそり立つ勝山。大正11(1922)年2月3日、その下を通る北陸線(当時)のトンネル西口で、親不知での線路除雪に従事していた作業員を乗せた列車が大雪崩に遭遇。92人の命が奪われ、重傷者もたくさんでした。

特に、蓮台寺、大和川、能生小泊の青壮年が多く亡くなったのは、農村漁村の男性が冬季農閑期、公共交通維持のための労働力としてあてにされていたからでした。当時は、まだまだ労働災害補償への考え方が未熟であり、当局により示された補償金は少額で、遺族は、子や夫が亡くなった悲しみに加え、未来の



収入も断たれることになり、途方に暮れていました。

当時御風さんは38歳。東京からUターンして6年。糸魚川で文筆業にいそしんでいましたが、事故そのものの悲惨さと、遺族への憐れみから義憤に駆られ、除雪作業員は単なる労働者ではなく、人流、物流を維持するという社会奉仕の名のもとに集まった献身的な人達であると主張。中村又七郎さん(幼馴染で政治家)とともに奔走し、要人にかけてあい、結果として補償額は十分なものになったといえます。

ただ、凄惨な事故だったゆえに、冬は、雪は、怖ろしい…しばらくは、そんな漠然とした思いに地域は覆われていました。

そのような中、事故から1年後、あの有名な、日本国中みんなが知っている御風さん作詞の童謡が発表されることとなります。

次号へつづく >>

問合せ 文化振興課 文化行政係 ☎552-1511

広報 **いといがわ**

ITOIGAWA



2023
Jan.
No.214

1

【発行】新潟県糸魚川市

【発行日】令和5年1月10日発行

【編集】糸魚川市総務部総務課広報統計係

〒941-8501 糸魚川市一の宮1-2-5

TEL 025-552-1511 FAX 025-552-8955

Eメール soumu@city.itoigawa.lg.jp

【制作】株式会社 アド・クリーク

【印刷】有限会社 池原印刷所

「1月の市のようす」は、広報いといがわ2月号で掲載します。

人口統計は
市ホームページ
または2次元コード
から確認できます。



糸魚川市
ホームページ



株式会社ホープが運営するアプリケーション「マチイロ」をスマートフォンなどにダウンロードすることで、いつでもどこでも広報紙を読むことができます。